

私だけの大きな夢

鹿児島大学教育学部附属小学校 六年 星簇 有紀

私の将来の夢は、麻酔科医だ。麻酔科医とは、個々の患者に適した麻酔方法を選択し、麻酔によるリスクを最小限に留めるために、手術前に患者を診察する。そして、患者の状態や麻酔時におけるリスク要因を把握する。

さらに、そのリスクを患者さんや家族に説明し、納得してもらうことが重要だ。私が、麻酔科医になりたい理由は主に二つある。最近では、新型コロナウイルスなどで、手術時に悪影響が出ており、手術をすることが難しくなってきた。うだ。そこで私は、麻酔科医になり、執刀医の助けをし、少しでも患者の命を助けられたらと思った。それが、一つ目の理由だ。二つ目は、本やドラマなどで麻酔科医に興味を持ったからだ。私は、もともと本が好きでよく図書館に行っていた。

医になってみたいと思うようになった。だから、私はこの夢を実現するために、麻酔科医になるための道を改めて調べてみた。

麻酔科医になるためには、まず医師国家試験に合格を果たし、医師免許の資格を取得しなければならない。その後、麻酔科専門医の下で二年間研修を実施し、厚生労働省に麻酔科標榜医の申請をする流れとなる。そして、麻酔科標榜医になり、三年間の研修を全うすれば麻酔科専門医の受験資格を得ることができる。ここまででおおよそ六年間、時間がかかる。つまり、麻酔科医になるのはそう簡単ではないということだ。そして、私はこれらのことをするだけではなく、他にも必要な能力やものがあることに気づいた。その一つは、責任感だ。実際の執刀医は外科医だが、トラブルが起きないように患者の全身管理を担当しているのが麻酔科医だ。麻酔で患者は意識を失っている。

その患者に代わって、手術中の血圧や脈拍、尿量といった心臓や血液の流れを管理するほか、呼吸の管理も行う。患者は意識がなくても痛みを伴う刺激に反応して体に悪影響が出る可能性がある。そうしたことをできるだけ減らすべく、患者の治療にあたっては責任感が重要だと考える。二つ目は、冷静な判断力だ。手術で危機の際には冷静でいなければならない。万が一、手術中に患者の容態が急変したとき、原因を素早く認識し、臨機応変に対応することも麻酔科医においてはとても重要だからだ。三つ目は、これから必要とするたくさんのお金だ。成人し、お金を自分で稼ぐまでに、学費や受験料、生活費、勉強に必要な参考書代などが必要になってくる。そのお金のほとんどを出すのが、両親だ。いつか、私が大人になり、自分自身でお金をかせげるようになったら、これからお世話になる両親に恩返しをしたいと思う。

そして、私はこれからする一つ一つのことを全力で取り組み、必ず夢を実現させていきたい。

星簇 有紀

のライフプラン

将来なにになりたいか？ 麻酔科医

その理由： 麻酔科医について興味があるから。

夢をかなえるまでのスケジュール

西暦(年)	年齢(学年)	夢をかなえるために努力すること	努力するために、なににお金がかかりそうか
2022年	11才(小6)	中学受験の勉強 英語の勉強 中学を受験する	習い事の月謝 参考書代など
2023年	12才(中1)	高校受験の勉強 部活	部活などの費用 参考書代など
2024年	13才(中2)		
2025年	14才(中3)		
2026年	15才(高1)	バイトを始める	授業料 参考書代など 部活の費用
2027年	16才(高2)	バイトをやめる 大学受験の勉強をする	
2028年	17才(高3)	大学を受験する	授業料 教材費
2029年	18才(大1)	医学部で勉強する	
2030年	19才(大2)	医師国家試験を受験	
2031年	23才(大6)		
2032年	24才(研)	麻酔科専門医の下で 研修 麻酔科標榜医の申請	受験料 生活費など
2033年	25才		
2034年	26才		
2035年	27才	麻酔科標榜医になり、 3年間研修 麻酔科認定資格を取得	
2036年	28才		
2037年	29才	麻酔科認定院で勤務	
2038年	30才(社)		

※最後の行は、荷歳の時にどうなっていたいか、自分で好きな年を入れてみましょう！

2040年 32才(社) 麻酔科専攻医を取得する